

チャイルド・デス・レビュー

Child Death Review (CDR)

Part2：準備編

(医療機関 / 医療職 対象)

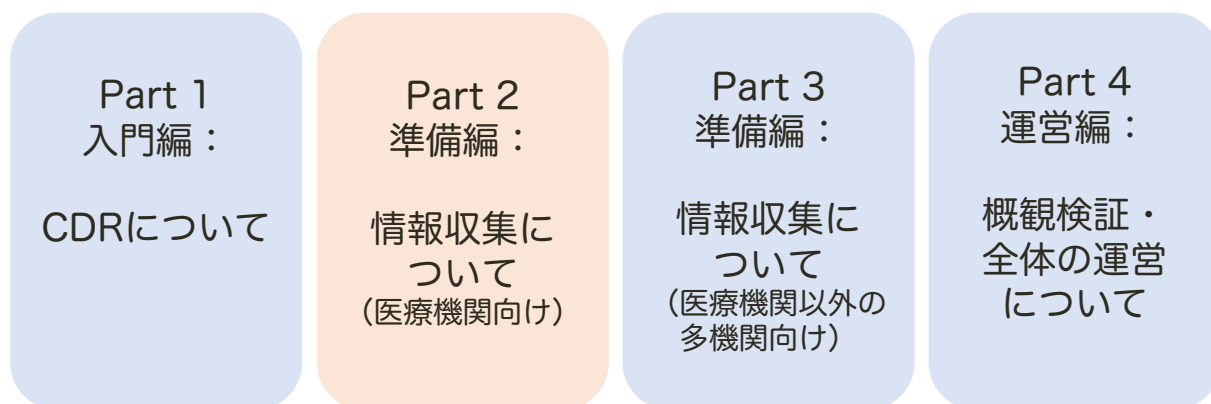
対象者

- ・ 医療機関の専門職で、これからCDRに関わる方
- ・ 情報提供のフォーマットについて学びたい方

令和3年度厚生労働科学研究費
補助金事業（沼口班）

作成日：2022年12月1日
担当：沼口、山岡、内田

CDR研修用資料 全体の構成



今回はこちらのお話になります

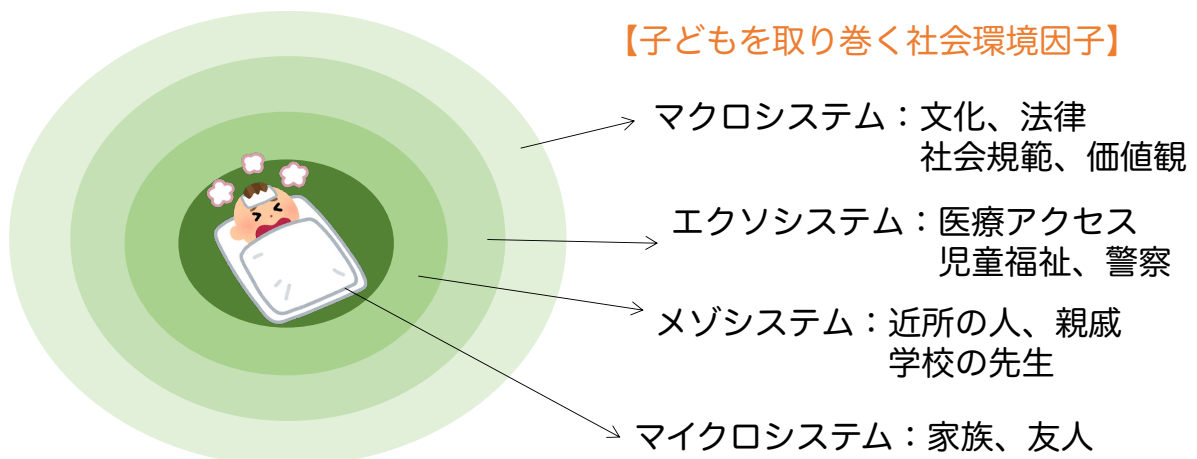
内 容

1. 検証を行うために必要な準備とは
情報共有で得られるメリット
情報共有する際の注意事項
2. 死亡調査票について
3. 情報の利用のしかた

検証を行うために必要な準備

1-1. 子どもを取り巻く様々な要因

- 死にいたる過程を包括的に理解し、予防策を総合的に検証するには、子どもを取り巻く様々な要因を検討する必要があります。
- そのためには、多職種から情報が不可欠となります。

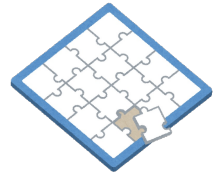


検証を行うために必要な準備

1-2. 情報共有で得られるメリット

多職種の情報を持ち寄ることで得られるメリットは、沢山あります。

- 家族の社会背景・家庭環境をより深く理解できる
- 時系列での経過を把握することができる
- それぞれの職種がどのような情報を持っているのかがわかる
- どのような状況の判断だったのかが理解できる
- どのような情報があれば、別の判断ができたかが検討できる
- 複数の事例を集めて、傾向を知ることができる



検証を行うために必要な準備

1-3. 情報共有する際の注意事項

個人情報を共有することに、不安や懸念を感じるかもしれません。情報の一部を共有せず（匿名化して）検証する場合があります。

【共有しない情報の例】

- × (子どもの) 名前
- × 生年月日・死亡年月日



会議に参加する人は、**機密保持の義務**があります。

【会議参加の条件】

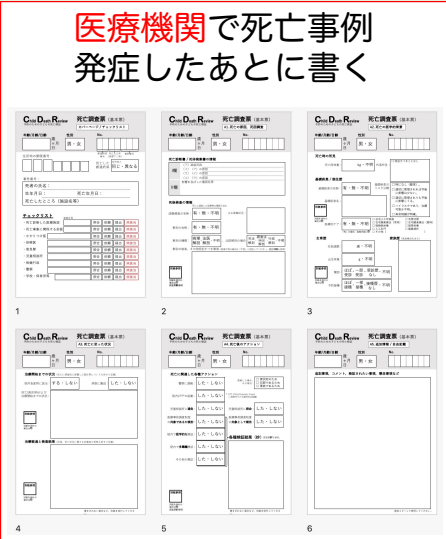
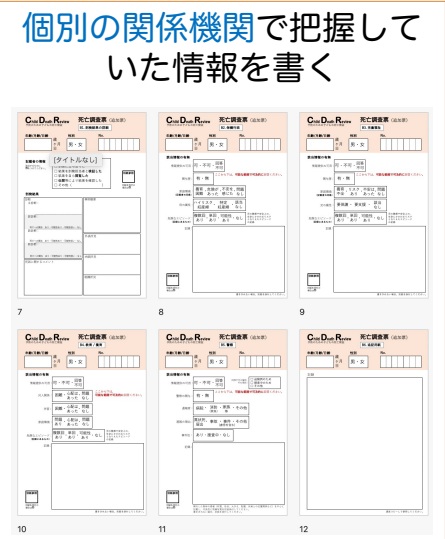
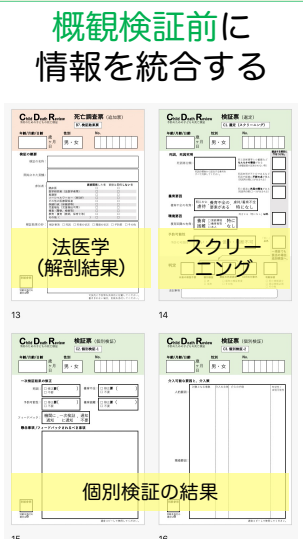
- × 知り得た情報を会議の外では話さない
- × インターネット・SNSには書かない



死亡調査票について

2-1. 死亡調査票の全体像

- 全部で16ページあり、構成は以下の3つのパートに分かれています。

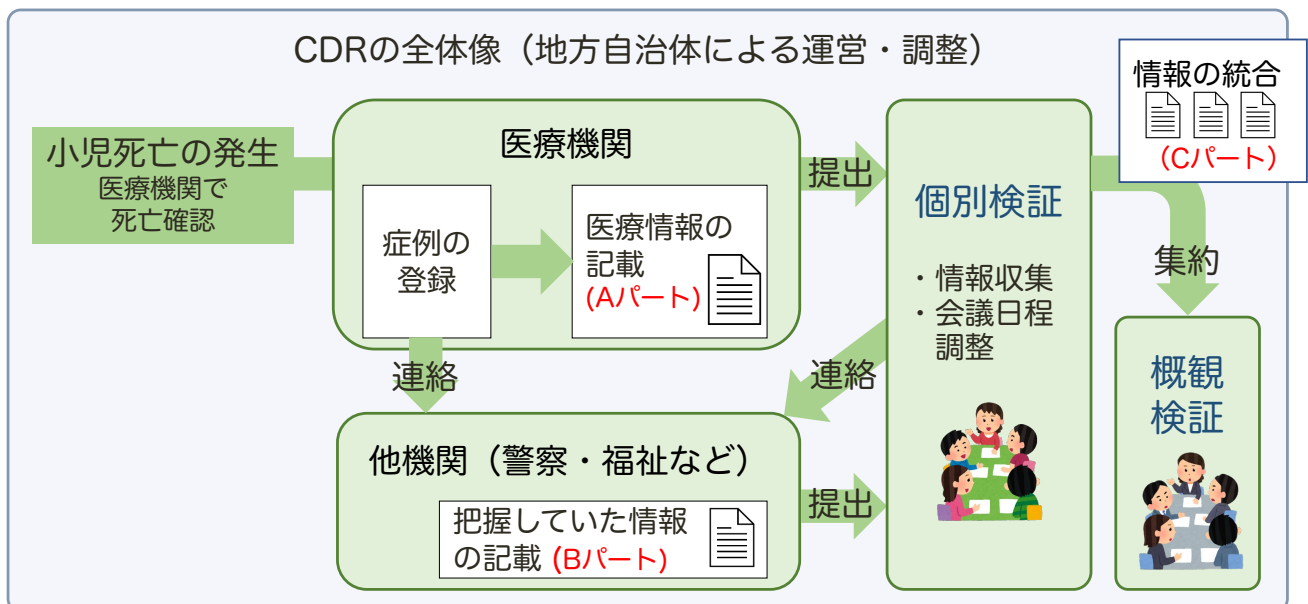
Aパート	Bパート	Cパート
<p>医療機関で死亡事例発症したあとに書く</p> 	<p>個別の関係機関で把握していた情報を書く</p> 	<p>概観検証前に情報を統合する</p> <p>法医学 (解剖結果) スクリーニング</p> <p>個別検証の結果</p> 

死亡調査票について

2-2. 全体像

(医療機関で死亡を確認した場合)

- 死亡確認後、医療機関で **死亡調査票のAパート** をまず記載します



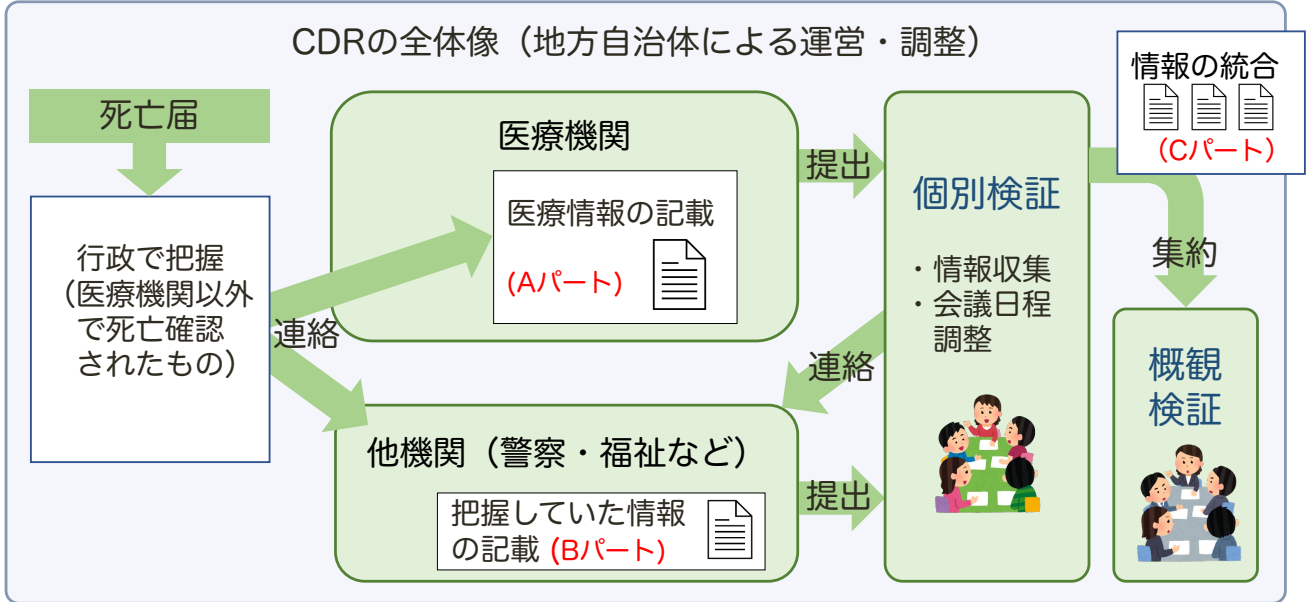
⚙️ 各地域で様々なやり方があり、これは一つの見本です。

死亡調査票について

2-3. 全体像

(医療機関で把握されていない死亡の場合)

- 要請にしたがって、医療機関で **死亡調査票のAパート** を記載します



各地域の実情に合わせて、効果的な連絡経路の確立が必要です。

ここからは、実際に記入する際の注意事項を示します

2-4. Aパート カバーページ

- 事例No.は、7桁の数字になります
都道府県番号+XX（西暦下2桁）
+番号YYY（3桁）
- 個別検証や専門家検証などで照合する
必要が出てくる可能性がある
ので記載してください
(検証会議では共有しません)
- 情報収集の状況把握のために、**チェックリスト**を使います

照合：情報の有無を問い合わせた
依頼：死亡調査票（Bパート）の記入を依頼した
提出：死亡調査票（Bパート）を受け取った
非該当：関係していないことが確認された

Child Death Review 死亡調査票（基本票）
予防のための子どもの死亡検証

カバーページ / チェックリスト **例**

年齢/月齢/日齢 歳 / 月 / 日 性別 男 女 No. ①

住所地の郵便番号 都道府県 死亡した年 番号 (西暦下二桁) 事例番号
 死亡した都道府県 同じ 異なる

事件番号：
 死者の氏名： ②
 生年月日： 死亡年月日：
 死亡したところ（施設名等）

チェックリスト

	連絡先等	照合	依頼	提出	非該当
・死亡診断した医療施設	まるまる病院	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・死亡事象に関係する前医	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・かかりつけ医	なし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・剖検医	まるまる大学法医学講座	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・救急隊	第一救急隊	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・児童相談所	中央児相	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・保健行政	まるまる市 母子保健課	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
・警察	〇〇県警 捜査一課	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・学校・保育所等	まるまる保育所	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-5. Aパート A1 死因について

- ① 死亡診断書・死体検案書に記載されたとおりに書いてください
- ② 画像検査には、レントゲン検査、超音波検査、CT検査、MRI検査などが含まれます
- ③ 特記すべき所見を書いてください
(特に所見がない場合は、「特記すべきことなし」と記入)
- ④ 解剖によって特定された死因、その他の所見を書いてください
* 解剖をした方がよいと思われたが実施できなかった場合、その理由をこちらに書いてください

Child Death Review 死亡調査票 (基本票)

A1. 死亡の原因, 死因調査

例

年齢/月齢/日齢 性別 No.

3 歳 男 女 3721099

死亡診断書 / 死体検案書の情報

I欄	(ア) 直接死因	溺水
	(イ) (ア) の原因	
	(ウ) (イ) の原因	
	(エ) (ウ) の原因	
	影響を及ぼした傷病名等	

死後検査の情報

② 画像検査の有無: 有 無 不明

③ 主な画像所見: CT 頭部: 特記すべきことなし
胸部: 肺水腫
腹部: 特記すべきことなし

解剖の有無: 有 無 不明

解剖の種類: 病理, 法医, 解剖, 解剖

④ 解剖の結果, その他特記すべき事項 (結果不明の場合は「不明」と明記してください。調査票B1も参照)

別紙参照
別紙を添付の場合は調査票B1参照

④ 解剖の有無と結果について、通知がなく当院では分かりません。

2-6. Aパート A2 医学的背景

- ① 現在の治療・投薬の有無にかかわらず、何らかの指摘・診断された疾患（先天性疾患、アレルギー疾患、神経筋疾患、悪性腫瘍、発達障害など）を有していた場合、「基礎疾患あり」としてください
- ② 法定健診である3・4ヶ月健診、1歳半健診、3歳健診について、判断してください
- ③ 定期接種の予防接種について判断してください
- ④ 同居家族・同胞の人数・年齢・既往歴など書いてください

Child Death Review 死亡調査票 (基本票)

A2. 死亡の医学的背景

例

年齢/月齢/日齢 性別 No.

3 歳 男 女 3721099

死亡時の所見

死亡時体重: 15 kg・不明 外表所見: 特記すべきことなし

基礎疾患 / 既往歴

① 基礎疾患の有無: 有 無 不明

基礎疾患名:

基礎疾患のリスク分類: 特になし (健常)。
 適切に管理されれば予後に影響は少ない。
 適切に管理されても予後に影響しうる。
 ハイリスクであり、治療可能か不明。
 寿命短縮が明確。

別紙参照
別紙を添付の場合は

医療的ケア: 有 無 不明

在宅人工呼吸器 気管切開
 在宅酸素療法 (常時) 在宅酸素療法 (要時)
 経静脈栄養 経管栄養
 人工肛門 経管栄養
 その他 ()

生育歴

在胎週数: 39 週・不明

出生体重: 3000g・不明

別紙参照
別紙を添付の場合は

② 育児: ほほ一部受診 受診なし

③ 予防接種: ほほ一部接種 接種なし

家族歴 (家族構成を含む)

④ 父親(34), 母親(31), 兄(7), 本人(3)の4人家族。特記すべき家族歴なし

2-7. Aパート A3 死亡に至った状況

- ① 院外急変とは、医療機関外で以下の状況が生じた場合を指します
 - ・ 予定外受診
 - ・ 緊急通報をした（110/119）
 - ・ その他予期しない状況の変化があった
- ② 個人情報を含めずに、簡潔に記載してください
病名以外の固有名詞（医療機関名など）は含めないでください
- ③ 医療機関についてからのことを、個人情報を含めずに、簡潔に記載してください

Child Death Review
予防のための子どもの死亡検証

死亡調査票（基本票）

A3. 死亡に至った状況 例

年齢/月齢/日齢 性別

3

歳

/

月

/

日

男

女

No.

3721

099

治療開始までの状況（死亡に間接的に影響した既往等についても併せて記載）

① 院外急変例に該当： する しない 病院に搬送： した しない

死亡（発見）時および治療開始までの状況：

発生（事件が発生した時刻） 17:45頃
 覚知（119に通報した時刻） 17:45
 接触（救急隊が患者を最初にみた時刻） 18:00
 現発（現場を出発した時刻） 18:10
 到着（病院に到着した時刻） 18:20

②

別紙参照

別紙を添付の場合は

本児が目を離した際に自宅の浴槽に転落したと母親より救急要請。救急隊の接触時には心肺停止で、母親により胸骨圧迫を実施中。救急隊によりCPRが継続され、18:20当院救急外来に到着したときも心静止。

治療経過と検査結果（死因、死亡状況に関する記載者の考察も併せて記載）

③

18:04 救急隊より第一報：自宅浴槽で溺水の3歳児、心肺停止状態。蘇生を行いなから当院へ受け入れ要請。
 18:20 救急外来に救急搬送。
 救急隊によって胸骨圧迫と人工呼吸中。心静止。自発呼吸なし。心電図で波形的に平坦。心臓マッサージを当直医に引き継ぎ。
 18:25 点滴確保。各種蘇生薬剤を注射。
 18:30 挿管。気管内より多量の水を吸引。心電図確認し、以後心静止のまま。
 18:50 医師より死亡確認。
 18:55 警察に連絡。
 19:55 CT撮影。特記すべき所見なし。
 遺体を警察へ搬送とされた。

別紙参照

別紙を添付の場合は

書ききれない場合など、別紙を添付してください。

2-8. Aパート A4 死亡後の対応

- ① CPTの有無にかかわらず、児童相談所に通告した場合は、通告「した」を選んでください
通告の前後で、または通告の有無にかかわらず、児に関して問い合わせを行った場合、照会「した」を選んでください
- ② 医療事故の可能性を検討したかどうかを記載してください
- ③ 医療職のみで行った事例検討会、症例報告会、臨床病理検討会などを含みます
- ④ 医師以外の職種（看護・MSW・心理士など）を含む検証、院外での多職種（児童福祉・警察・消防など）を含む検証のいずれも該当します

Child Death Review
予防のための子どもの死亡検証

死亡調査票（基本票）

A4. 死亡後のアクション 例

年齢/月齢/日齢 性別

3

歳

/

月

/

日

男

女

No.

3721

099

死亡に関連した各種アクション

警察に通報： した しない 通報した場合、その理由：
 異状死のため
 犯罪であるため
 事故であるため

院内CPT*の起動： した しない *CPT (Child Protection Team) - 病院内子ども虐待対応組織

① 児童相談所に通告： した しない 児童相談所に照会： した しない

② 医療事故調査制度の対象であるか検討： した しない 医療事故調査制度の対象として報告： した しない

③ 院内で医学的な検証： した しない

④ 院内で多職種検証： した しない

その他の検証： した しない

別紙参照

別紙を添付の場合は 調査票B7参照

各種検証結果（抄） 調査票B7も参照。

救急隊・病院の症例検討会：

救急隊による蘇生、搬送に問題なし。乳児の気道確保について意見交換。市民への乳幼児蘇生の啓発は効果的に行われている。屋内溺水予防にかかる安全教育は誰が行うか。

2-9. Aパート A5 追加情報

- ① その他、記載しておきたいことはこちらに書いてください

Child Death Review 死亡調査票 (基本票)
 予防のための子どもの死亡検証

A5. 追加情報 / 自由記載 **例**

年齢/月齢/日齢 性別 No.

3 歳 月 日 男 女 3721 099

追記事項、コメント、検証されたい事項、懸念事項など

①

適宜コピーして使用してください。

2-10. 死亡調査票 (Bパート)

【Bパートの概要】

- B1の解剖結果**は、医療関係者が記載しますが、その他の情報は、各関係機関に記載を依頼します。
- 他の関係機関にどのように連絡し、情報収集するかは、地域の実情にあわせて、体制を確認してください。

7 B1 法医学 (解剖結果)

8 B2 保健行政

9 B3 児童福祉

10 B4 保育教育

11 B5 警察

12 B6 その他

2-11. Bパート B1 解剖結果

Child Death Review 死亡調査票 (追加票)
 予防のための子どもの死亡検証

B1. 剖検結果の詳細 例

年齢/月齢/日齢 歳 月 日

性別 男 女

No.

- ① 剖検結果を記載する記載者の情報を書いてください
 法医学や病理医のレポートを見て書く場合は、「閲覧した」を選択してください

① 記載者の情報

剖検を自ら実施した
 剖検に立ち会った
 結果を剖検担当者と検証した
 結果を自ら閲覧した
 伝聞等により結果を確認した
 その他 ()

別紙参照
別紙を送付の場合は

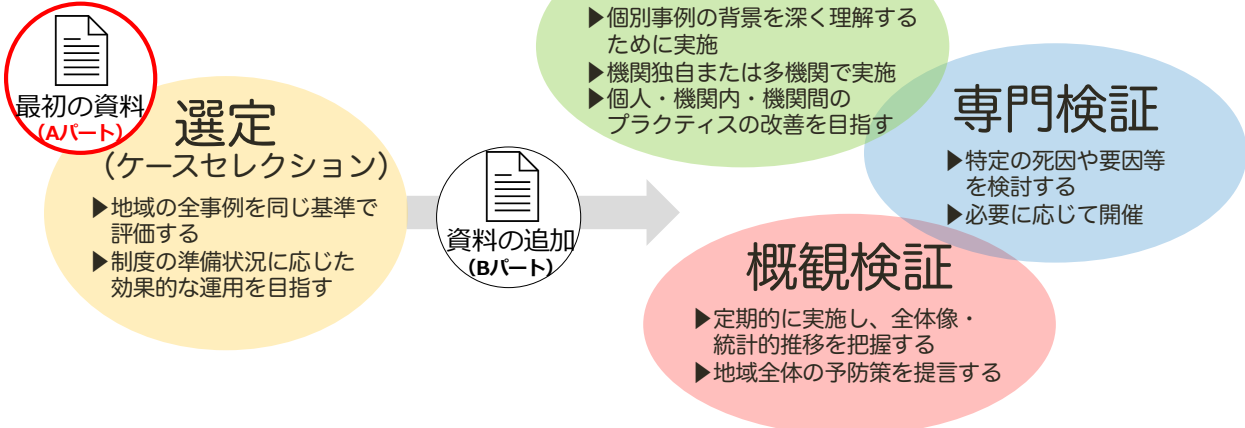
剖検結果

<p>診断</p> <p>主診断: 溺死</p> <p>副診断:</p> <p>死亡への関与 あり・可能性あり・可能性低い・なし 副診断:</p> <p>死亡への関与 あり・可能性あり・可能性低い・なし 副診断:</p> <p>死亡への関与 あり・可能性あり・可能性低い・なし 副診断:</p> <p>死因に関するコメント</p> <p>溺死。</p>	<p>事例概要</p> <p>17:30頃より浴槽にお湯を張りはじめ、しばらく目を離した。17:45頃に母親が、着衣のまま顔を下にして浴槽内に浮いている死者を発見。浴槽高さ36.5cm、浴槽深さ61cm、水深47cm。119通報のあと蘇生を行った。侵入跡なし。明らかな育児放棄やDVほかを認めない。搬送先の病院で心拍再開なし。気管内より多量の水が吸引された。18:55死亡確認。</p> <p>外表所見</p> <p>蘇生医療の痕跡を認める。 その他明らかな損傷なし。</p> <p>肉眼所見</p> <p>諸臓器に特記すべきことなし。</p> <p>組織所見</p> <p>気管支腔には多核球を含む粘液。肺胞内には多核球の集簇。その他明らかな病変なし。</p>
--	---

法医学や病理医の担当医に送付して記載を依頼する際には、「個人情報を含めずに」事件の概要や解剖結果を記載するよう、お願いしましょう。

情報の利用のしかた 3-1. 検証全体の構成

- 最初に収集された資料（主に医療機関の情報；死亡調査票 **Aパート**）をもとに、個別検証の対象事例を**選定（ケースセレクション）**します。
- 以後の検証等のため情報の追加が必要な場合は、選定の前後で収集します。

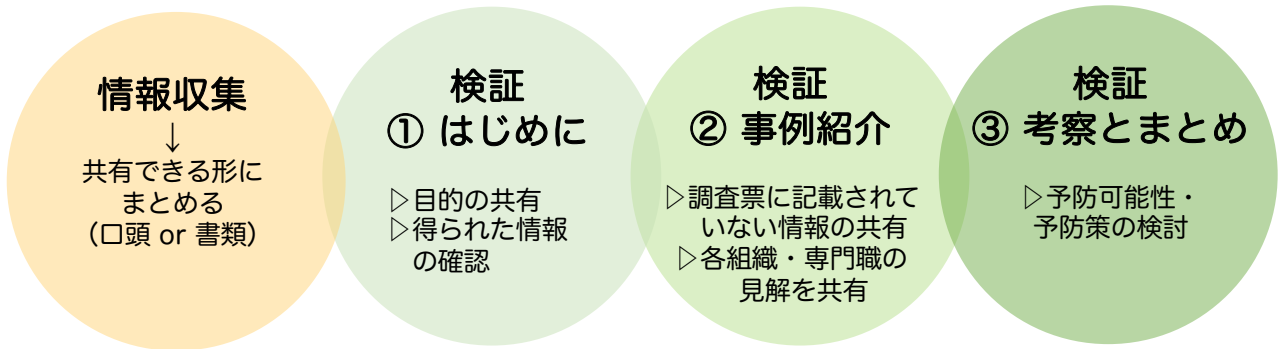


ここに示したのは、ひとつの例です。各地域で工夫して実践してください。

情報の利用のしかた

3-2. 個別検証

- 情報収集後に多職種で集まり、**個別検証**を行います。
- 直接事例に関わった者で検証する方法や、直接は関係しない者で検証する方法があります。
- 個人情報を抜いた形で、口頭で説明する方法や、サマリー資料を配布する方法などがあります。



具体的な検討会の様子を紹介する「**模擬動画**」がありますので、そちらをご覧ください。決まったルールなどはありませんので、各地域で工夫して実践してください。

情報の利用のしかた

3-3. 概観検証

- 地域の全体像について検証することが、**概観検証**の目的です。
- 各部門や組織の全体像を把握する立場の参加が好ましいです。



決まったルールなどはありませんので、各地域で工夫して実践してください。

情報の利用のしかた

3-4. 専門検証

- 解析や予防策の策定に特に高い専門性を要する事例が、**専門検証**の対象です。
- 事例を集めて類似点を探索する、検証の効率を高める、匿名性を担保する等の目的で、**複数地域や複数年度の事例をまとめる**ことも想定されます。
- 専門性の高い有識者の参加や、専門家集団の内部での検証も考えられます。



決まったルールなどはありませんので、それぞれが工夫して実践してください。

Part 2: CDR準備編

まとめ

- 予防策を検討するためには、**多面的・多角的な情報を収集**することが必要となります。
- 死亡調査票は、なるべく**同じ基準で記入**していくことで、情報の質を担保していく必要があります。
- 医療機関からの情報（死亡調査票Aパート）は、**検証対象の選定**など以後の判定において、**最も重要な基礎情報**となります。
- 多職種で検証する際には、**個人情報**を共有せずに話し合います。また参加者は**機密保持の義務**があります。
- 検証の際には、死亡調査票で集められた以外の情報も**口頭で共有**するなどして、理解を深めることもあります。